

あむーる

島根県立松江北高等学校
第3学年 八幡英語通信
2016年10月31日発行
第18号

No.18



先輩は語る<17>

慶應義塾大学・文学部1回生 木島 翔子

北高生の皆さん、こんにちは。私は一昨年、北高を卒業して今は慶應大学文学部に通っています。今日は、私は浪人生活について書こうと思います。

突然ですが皆さん、「浪人」ってどういうイメージですか？辛そう、遠回り、孤独……。多くはネガティブなものだと思います。正解です（笑）。浪人時代は本当に結果が出るか分からないし、落ちたら後がないし、間違いなく私の人生の中で1番辛い1年でした。正直もう絶対に戻りたくないです。でも1つの目標に向かってひたむきに努力し続けたあの1年は間違いなく充実していたたくさんの大切なことに気づけた1年でもありました。

浪人して気づけたことの1つ目は、いかに自分がたくさんの人に支えられているか、ということです。私は東京で浪人したので寮で1人暮らしをしたのですが、そこで初めて家族が側にいてくれることのありがたさに気づきました。慣れるまでは本当に淋しくてよく泣いていました。毎日昼食に食べるコンビニのおにぎりは味気なくて予備校で自宅生の友達が食べているお弁当が羨ましかったです。「ただいま」と言っても「おかえり」と言ってくれる人がいない家に帰るのは辛かったし、熱が出て誰も側にいない環境は本当にきつかったです。どれだけ自分が家族に支えられているのかを実感しました。また友達の素晴らしさも再確認させられました。私は4Rの女子の中で唯一、浪人したので少し孤独感を感じていました。みんな、私のことなんて忘れて楽しい大学生活を送ってるんだろうな、と。（今思うとかなり卑屈笑）ですが、私は本当に素晴らしい友達を持ったもので、定期的に体調を気にかけてメールをくれる人、センターの前日に必勝グッズを送ってくれた人、二次試験の前に東京まで激励に来てくれた人、試験の日の朝には「いってらっしゃい」の、夕方には「1年間お疲れ様」のメールをくれた人……。見捨てずに色々な方法で支えてくれる友達がいたからこそ私は最後まで全力で走り抜けられたと思います。その他にも小さい頃にお世話になった習い事の先生がお守りをおくってくださったことや高3の時に世界史を教えてくださいました先生が毎月、「今月も頑張れよ！」と電話をくださっていたこと、感謝してもしきれません。こんなに多くの人に支えられていることに浪人しなければ気づけなかったと思います。

2つ目は共に戦う仲間の素晴らしさです。よく「受験は団体戦だ」と言いますが私は浪人するまであまりピンと来ていませんでした。しかし浪人生の時はクラスメイトと相互添削をしたり、良い参考書を教え合ったり、と互いに切磋琢磨しあい、言葉の意味がよく分かりました。共に同じ目標を持ち、足を引っ張り合うのではなく、高め合うことのできる仲間は私の宝物です。

残念ながら私は高1の頃から目指していた東大に二年連続で振られてしまいました。本当に悔しかったし、応援してくれた人たちの期待に応えられなくて申し訳なかったし、浪人期に出会った仲間と同じ大学に行けなかったことは悲しかったけど、今慶應で頑張っているのは浪人して限界まで挑戦したからだと思います。第一志望に合格していないから強がりに見えるかもしれないけど、心から浪人して良かったと思えるし、あの一年は私の誇りです。現役で受かったところに入っていたら、ずっと東大に未練を持ち続けて腐っていたと思います。

模試で判定が悪い時、センターが上手くいかなかった時、志望校を下げたくなると思います。でも踏ん張ってください。逃げずに挑戦してください。奇跡は起きるかもしれないし、不完全燃焼で妥協して大学に入っても後悔すると思います。頑張り続けることは辛いけど、得るものは大きいです。最後まで前だけを見て全力疾走してください！

●木島さんは、2年生・3年生と英語を教えました。2年生の時には、「**島根県英語弁論大会**」で優勝して、広島まで中国大会に一緒に行きました。浪人して英語のセンター試験は200点満点でした。残念ながら東大は叶いませんでしたが、悔しさをバネに頑張ってくれるものと期待しています。今回は浪人生の思いを綴ってくれました。ありがとう！下は、夏休みに訪ねてくれた時のツーショット写真です。📷📷📷

